



「みたまのふゆ」とは、私共が常に蒙りいただいております大神様の恩徳、加護、御神威を尊称した言葉です。人間は自分ひとりの力で生きてゐるのではなく、つねに「みたまのふゆ」をいただいて、生かされてゐるのです。

### 新社務所が竣工しました

令和の御大禮奉祝事業として、社務所の改築をすることとして、昨年八月二十九日の地鎮祭以降、建設工事を開始し、十月十八日の上棟祭執行以降も年末年始を掛けて工事を継続して参りましたが、本年三月に無事竣工を迎えました。

この事業につきましては、多くの皆様方から多大な御協賛も頂戴いたしましたこと、篤く御礼申し上げます。また、工事期間中は境内が手狭になり、社務も仮社務所での執行のため、参拝の皆様にも何かとご不便をおかけいたしましたこと深謝します。

本来ならば、御協賛いただきました皆様をはじめ、地元関係各位をお招きして、竣工の祝賀の式典を執り行ひ、新社務所の施設のお披露目のご案内も致したかったのですが、現今、折悪しく新型コロナウイルスにより緊急事態となつてしまひました。とりあへず本紙写真をもつて、新社務所竣工のご報告をさせていただきます。

時節改善の折には、改めてご案内させていただきます。だくとともに、広く皆様のご活用に使させていただきます。申しあげます。

(上は新社務所正面。二・三面に詳細記事)

### 令和二年祭事曆

- ◎ 一月 一日 歳旦祭  
鶏鳴神事
- ◎ 二月 三日 天長祭
- ◎ 三月 二日 春季大祭  
祈年祭・合祀神例祭
- ◎ 五月 五日 例大祭  
神社本廳勅幣使参向
- ◎ 四月 二九日 昭和祭  
琵琶島弁天社へ神輿渡御
- ◎ 六月 三日 大祓式  
大祓人形納め・茅の輪神事
- ◎ 七月 五日 天王祭出御祭  
本社神輿御霊入・宮出渡御
- ◎ 七月 七日 三つ目神楽  
無形文化財湯立て神楽
- ◎ 七月 二二日 天王祭巡幸祭  
天王神輿町内巡幸
- ◎ 七月 一九日 手子神社例祭
- ◎ 九月 一日 浅間神社例祭
- ◎ 九月 一七日 熊野神社例祭  
無形文化財湯立て神楽
- ◎ 一〇月 一日 手子神社秋祭  
無形文化財湯立て神楽
- ◎ 一二月 三日 秋季大祭  
新嘗祭
- ◎ 二月 八日 歳の市  
開運熊手授与
- ◎ 二月 三一日 大祓式  
大祓人形納め・古札焼納式
- ◎ 毎月 一日 月次祭



# 新社務所の紹介

御社殿側から見た新社務所です。1階は回廊が巡らされ、雨でも便利に授与品のお求め等が出来ます。



玄関ホールは、昇殿祈祷の受付と待合所を兼ねます。待合せ用にベンチソファも用意しました。

正面飾り棚の右側には展示室、左側は2階への階段で、後ろ側は授乳室です。

トイレも靴のままご利用いただける形で用意しました。

展示室には瀬戸神社と金沢八景の歴史的な資料などを常時展示してご覧いただけます。



初宮詣での赤ちゃん授乳のため授乳室をご用意しました。





二階の大広間です。三人掛けの机を24脚並べることができますから、72人の会合を開くことが可能です。神社の祭礼での直会のほかに、各種の文化セミナーのような催しに広く活用してゆきたく存じます。

マイク・音響の設備もいたしました。氏子・崇敬者の皆様が有益にご利用いただければありがたく存じます。

各種会合等のご要望があれば、社務所までご相談ください。



正面玄関の特色は「唐破風」の屋根です。旧社務所の玄関の材を残し、腐朽部分を除きそのまま利用しました。彫刻類は古材が生きています。



二階には八畳と六畳の和室が二間あります。祭典の時には、神職の装束着装の部屋になります。祭典以外の時には、お茶会などにご利用いただけます。

### 新型コロナウイルス感染症による緊急事態における神社の状況について

ウイルス対策の緊急事態に対応して、皆様も家庭待機やテレワークなどでお過ごしのことと存じます。

瀬戸神社におきましても、三月二〇日の祈年祭・合祀神例祭は、参列いただいた総代の皆様の直会は中止しました。

四月に入り、緊急事態の発表以降は、総代会世話人も文書審議とさせていただきます、当分の間の祭礼行事は、参列なしで行ふことと決しました。

例年実施されてきました「子供すもう大会」や「居合道奉納演武」も中止とし、四月二九日の「昭和祭」は神職のみで齋行しました。日々の神前での日供祭を始め、月次祭も含めて、祭事には通常の祝詞に加へて「厄疫退散祈願」を辞別（ことわけ）祝詞として奏上し、一日も

速く通常の生活に戻るやうご加護を祈念してをります。五月一五日の例祭も、例年は献幣使参向と琵琶嶋神社「おわたり」行事があるのですが、これも中止しました。

六月の人形納めは「厄疫退散」の意味もありますので、消毒等の工夫をしながら実施し、「茅の輪守り」の授与も予定致します。三〇日の「茅の輪くぐり」は多人数の密集をさけるために見送ることとします。

七月の天王祭も、神輿の渡御は中止いたしますのでご承知置きください。もちろん神前での祭祀は、参列者なくとも厳粛に執り行います。

「天王祭」の起源は京都の「祇園祭」にあります。そのはじめは「厄疫退散」でありました。今日のやうな状況こそ、「まつり」をすることの意義をしつかりと心に刻む必要があると存じます。

### 瀬戸神社略縁起

大昔、今の泥亀町、大川町、釜利谷町小泉のあたりまで海が入りこみ、柳町や六浦町の塩場、南六浦、内川町内もすべて海でした。そして洲崎と瀬戸の間は、潮の干満時には急流が渦を巻き、容易に渡れぬ難所でした。古代人がここに海神を祀ったのが瀬戸神社の起原で、今から千五百年以上も前(古墳時代)のことです。

治承四年(一一八〇)鎌倉に入った源頼朝が、日頃崇敬する伊豆三島明神をこの霊域に遷祀してからは、六浦港の守り神「瀬戸三島大明神」として鎌倉幕府をはじめ上下の尊信をあつめ、その後、足利氏、小田原北条氏の崇敬も篤く、江戸時代には名勝金沢八景の中心にあつて、百石の社領を有する大社として、江戸の町民の間まで信仰者がひろがりました。

明治六年郷社に列格、戦後は宗教学人となり神奈川県神社廳幣使参向神社に指定。現在の社殿は寛政十二年の建造で、昭和四年の屋根を銅葺きに改め、平成二十四年には御屋根替へと修増築の御修営事業が行われました。

### 御祭神

#### 大山祇(おほやまつみ)の命

伊豆国三島大社、伊予国大三島の大山祇神社の御祭神と同じ海上交通の神であると同時に、水源地を司る山の神であり、金属、岩石、木材などの建築資材や、森林、鳥獣に至るまで、一切の生活資源は、この大神の恩徳によるものです。

天孫瓊瓊杵尊の御后となられた木花咲耶姫の御父神にあられます。  
**須佐之男(すさのを)の命**

配祀の神の須佐之男命は、天照大神の御弟神で、八俣の大蛇を退治された神話は有名です。自然界、人間界の罪けがれや悪者を追ひ祓ひ、人々の苦しみを除いてお守りくださる神様で、別名を「天王さま」と仰がれています。七月の天王祭りには大神輿で氏子町内をくまなく御巡りになります。

#### 菅原朝臣道真公

天満大自在天神とも尊称し、一般には「天神さま」と親しまれて呼ばれます。書道、学問、詩文、和歌に秀でてをられただけでなく、至誠、尽忠、孝道、正義、国家鎮護の神さまでもいらつしやいます。

### 釜利谷町鎮座

#### 手子神社

釜利谷町総鎮守の手子神社は、もとの地の領主伊丹左京亮が、文明五年(一四七三)瀬戸神社の御分霊を宮ヶ谷の地におまつりしたものです。

延宝七年(一六八〇)、伊丹氏の孫、三河守昌家の子で、江戸浅草寺の習楽院忠連正が、現在地に遷祀して以来、釜利谷一郷の総鎮守として信仰を集めました。明治六年村社に列格、大正十二年の大震災で倒壊しましたが、同十五年再建し、昭和四十五年には御屋根も総銅板葺きに改修し、一段と御神威を加へました。

御祭神は瀬戸神社と同じく大山祇命、例祭日は七月十七日(現在はその後の日曜日)ですが、十月十五日(前後の日曜日)の秋祭りには、古式豊かな湯立神楽が昔ながらの伝統を守つて行はれます。

境内の洞窟にお祀する竹生島弁才天は、金沢八景のひとつ「小泉の夜雨」の中心地にあつたもので、厄除け、開運の福神として信仰されてゐます。

#### 朝比奈町鎮座

#### 熊野神社

社伝によれば、鎌倉に幕府を開いた源頼朝が、その東北の守りとして熊野三社(ここに勧請したものといひます。仁治二年(一二四一)、鎌倉幕府は朝比奈切通しの開鑿に全力を挙げ、執権北條泰時は自ら現場に臨んで工事を指揮しました。社殿の建立もこの頃行はれたことです。

その後、元禄八年(一六九五)、地頭加藤太郎左衛門尉良勝が神殿を再建してから、里人の崇敬を集め、相模国鎌倉郡峠村の鎮守として崇敬されてきました。安永及び嘉永年間には再度の修築も行はれて、明治六年村社に列しました。

昭和五十三年、氏子一同の熱意を結集して、入母屋造、総檜、銅板葺きの本殿を完成、更に平成御大典記念事業としての新たな拝殿を建築竣功して今日に至つてゐます。御祭神は速玉男命、伊邪那岐命、伊邪那美命の三柱です。

#### 谷津町鎮座

#### 浅間神社

谷津の町の鎮守として古来崇敬されてきました。伝説では御堂関白太政大臣藤原道長が当地に來遊、能見堂から金沢の景勝を鑑賞したときに、正面の目下にあるこんもりとした山を塗桶山と名付け、そこに浅間大神を勧請したといはれます。道長の來訪は史実ではありませんので、創建の詳細な時期は不明ですが、富士山信仰が関東一円に広まった中で当地にも勧請されたものでせう。ご祭神は富士山の浅間神社と同じ木花之佐久夜毘賣命です。特に安産の御利益があり婦人の崇敬が篤かつたと伝へます。御祭神が天孫瓊瓊杵尊の御后となり、御子神等を出産されたことによるものでせう。

祭礼は六月一日の開山祭と九月一日の例祭(近くの土日曜)には谷津・東谷津・泥亀の各町内で神輿の巡幸その他の賑やかな行事が営まれます。寛正四年(一四六三)西山松眠といふ医師が神饌田を奉納以来、例祭には赤飯をお供へし、お下がりは崇敬者婦人が分けたといふことです。

### 瀬戸神社

〒二三六〇〇二七  
横浜市金沢区瀬戸十八一十四

(電話) 〇四五七〇一九九九二  
(FAX) 〇四五七〇一九九九四

<http://www.setoinja.or.jp>